

岩屋中だより

令和7年7月1日 NO10

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

教育週間を迎えるにあたって

長崎県に住んでいる私たちにとって、忘れてはならない大きな、そして悲しい出来事(事件)があった。

皆さんが生まれる前のことですが……………

長崎市の中学生在が幼児を誘拐し、殺害したという事件(2003年)

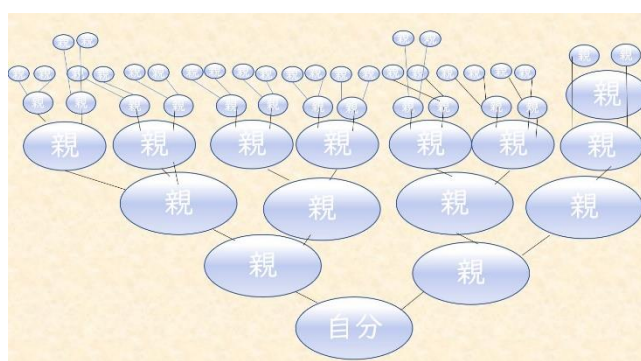
佐世保市の小学校の教室で、刃物で友人を殺害したという事件(2004年)

佐世保市の高校生が同級生を殺害した事件(2014年)

大事な『命』を奪うという大変な事件だった

『命』の大切さを考えよう。学ぼう。
＝教育週間

『命』について考えよう。学ぼう。



長崎っ子の心を見つめる教育週間の実施にあたって、週間の初日に行った講話のスライドを使って、概略を説明いたします。

まず最初に、この教育週間がなぜあるのかについて話をしました。2003年、2004年そして2014年と、子どもが子どもの命を奪うという心をえぐられる悲しい出来事がありました。大事な命が奪われるというこの重大な事件に、命の大切さを見直そう、考えよう、学ぼうということで続いているのが、この教育週間であることを触れました。この教育週間を通して、私たちも新たな気持ちで生命尊重を学ぼうと伝えました。

その後と、自分の命にかかわっている人間がどれくらいいるのかについて図にして示しました。たった一つの命であっても、その親、そして、その親、その親、そしてまたその親……………とたどり続けていくと、多くの人の命を私たちは引継ぎ、受け継いでいるということがわかることに触れました。つまり、命は一人目から二人目、三人目、四人目、五人目……………と受け継がれていくバトンのようなものであるということを伝えました。その『命のバトン』を別の視点で考えて人がいることを触れました。

保護者の皆さんには、ご存知の方も多いのではないかと思います。『相田みつを』さんです。彼は、人生や生き方、苦悩、生命など幅広く人間の生き方を示した方です。

自分の番

生まれかわり

死にかわり永遠の

過去の命を

受けついで

今自分の番を生きている

それがあなたのいのちです

それがわたしのいのちです

みつを

※集会では原本を紹介

自分の番

生まれかわり

死にかわり永遠の

過去の命を

受けついで

今自分の番を生きている

それがあなたのいのちです

それがわたしのいのちです

私たちの命はつながっている。

自分の命は、自分だけのものではなく、今日まで自分を
守り続けた人がいる。命がけて産んだ人がいっぱいいて、
今の私がいる

命は バトン

いのち

アノネ

にんげんはねえ

自分の意志で

この世に生まれて

きたわけじゃねんだな

だからね

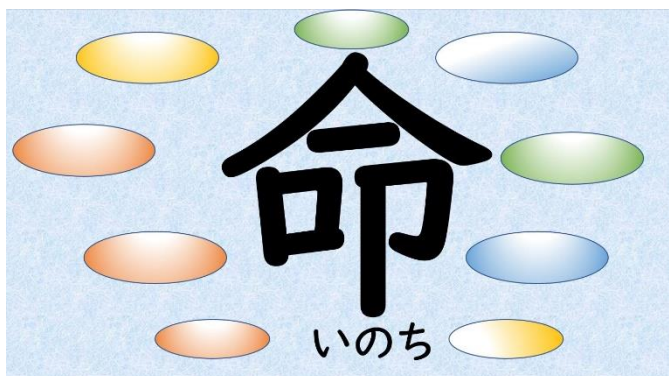
自分の意志で

勝手に死んでは

いけねんだよ

みつを

※集会では原本を紹介。



加えて、相田みつをさんの詩をもう一つ紹介する予定でしたが、時間がなく省略しました。左記に示す詩ですが、人間の命について、心のこもった強いメッセージです。した。この世の中に存在する以上、自分の命を自分でなくす行為は絶対にダメだという強い思いを感じた詩でした。ゆっくりかみしめながら読んでみてください。

この日は、学校図書ボランティアのリップルさんの読み聞かせもありました。テーマは『命』『いじめ』『悩んだときにどうするか』など、私たちの生活の中で命にかかわることを、体験談を交えながら読み聞かせをしていただきました。日ごろから読み聞かせを学年ごとに行っているリップルさんですが、全校生徒の前に行うということで、ずいぶん緊張をされておられました。あらかじめ、リハーサルにも来られて、準備万端で臨まれました。

私が、命のバトンを説明したときに見せた本は、リップルさんからご紹介いただいた『つながっている！いのちのまつり』という本からいただいた資料なのです。大変なりがたいお話をしていただき有難く感じます。

また、図書室前には、アンパンマンの『何のために生きるのか』という本が陳列されています。私も是非読んでみたいと思っています。

図書ボランティアのリップルさんのご厚意で、命に係る読み聞かせは、感動的で、命について考えるきっかけをご提供していただき、命・生き方に係る本を紹介していただくことで、学びの場を広げていただいたなと感じています。本当に有難いお話でした。時期が来たら、図書室で閲覧が可能になるように……とお話しされ、学校を後にされました。『いろんな人のかかわりの中で、命を考える。』大事にしたいものです。

夏休みの部活動の実施時間帯変更について

このことについて、文書を作成し、配信をしております。梅雨明けした途端、灼熱の日が続き、熱中症の対応を例年以上に考えなければならないようになりました。そこで、夏季休業中の部活動活動時間を気温が低い午前中に集中させるようにしました。詳細は、配信済の文書を参照願います。